

行った主な活動

授粉

最初に花を摘み粗花粉を作る作業を行った。これは、摘んだ花を開葯器にかけ花粉を集める作業である。その後、梵天(ぼんてん)を使って1輪ずつ手作業で花粉をつけていった。品種ごとの花の咲き方を見ながら、適切なタイミングで行った。

※開葯器(かいはくき)

植物の雄しべの先端にある「葯(やく)」という花粉が入った袋を乾燥させ、開かせて(開葯)、中の花粉を取り出すための装置



摘果

他の果実と比べて実が大きいものや、茎が長いもの、形の良いものを残しながら摘果を行った。特に、3番目から5番目に咲いた花からできた果実を残すのが適している。一番花(最初に咲いた花からできた果実)は茎が短く折れやすいため、できるだけ残さないように意識した。



活動を行った感想など

2年目に入り、花粉の採取や授粉作業も昨年よりもスムーズに進められ、自分でも成長を実感できた。

摘果についても、基準や判断に対する不安感は減ってきたのでスピードにも意識を向けて進めていきたい。

今後の目標など

摘果作業は今後数ヶ月にわたって続くので、作業効率と品質を両立できるように、時間管理と判断力の精度を意識していく。

